

食物アレルギーを持つ個人に寄り添うアレルギー情報登録連携サービスの開発

Development of an Allergy Information Registration and Integration Service Supporting Individuals with Food Allergies



中島 遼 (神戸大)、中田 匠哉 (神戸大)、陳 思楠 (神戸大)、佐伯 幸郎 (高知工科大)、中村 匡秀 (神戸大)

Ryo NAKAJIMA (Kobe Univ.), Takuya NAKATA (Kobe Univ.), Sinan CHEN (Kobe Univ.), Sachio SAIKI (Kochi Univ. of Tech.), Masahide NAKAMURA (Kobe Univ.)

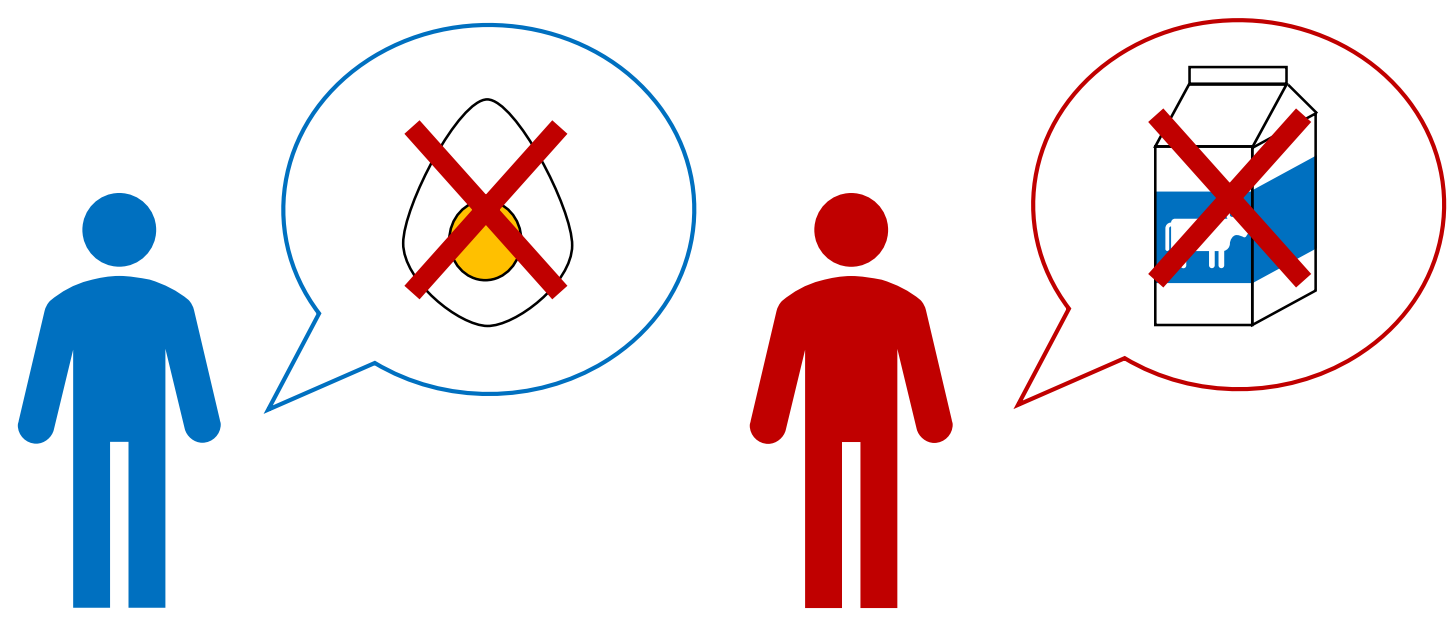
要旨

飲食店等における食物アレルギー患者のアレルギー情報の交換を高精度かつスムーズにするために、個人のアレルギー情報を一元的に管理し外部と連携する「アレルギーデータサービス」を提案する

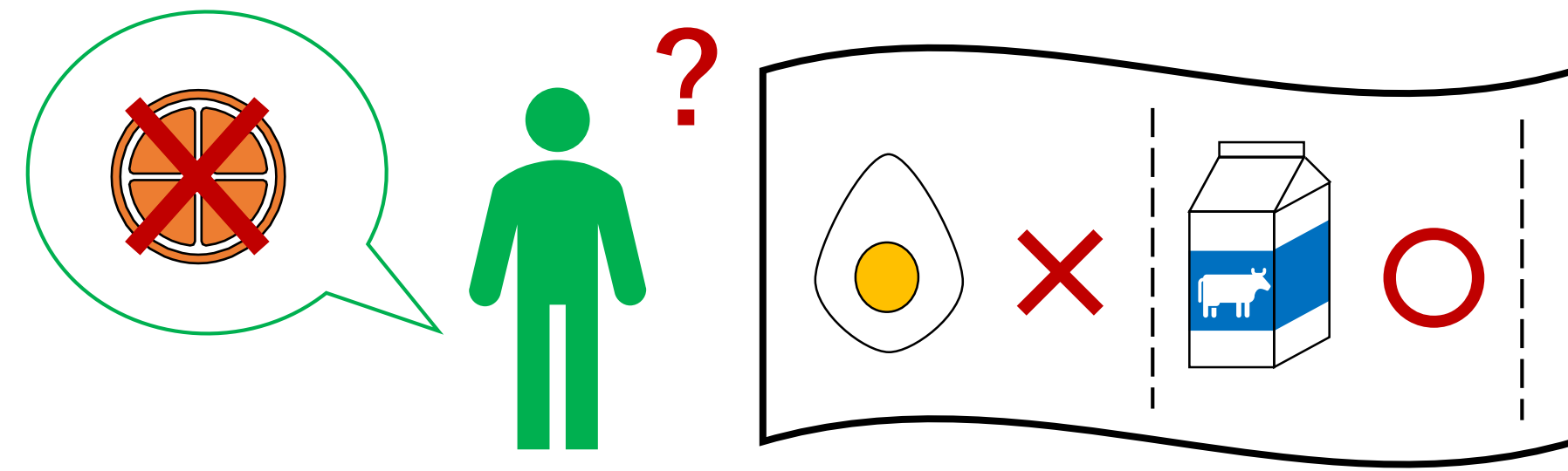
To achieve highly accurate and seamless exchange of allergy information for individuals with food allergies in restaurants and food services, we propose an 'Allergy Data Service' that centrally manages personal allergy information and enables integration with external systems

背景

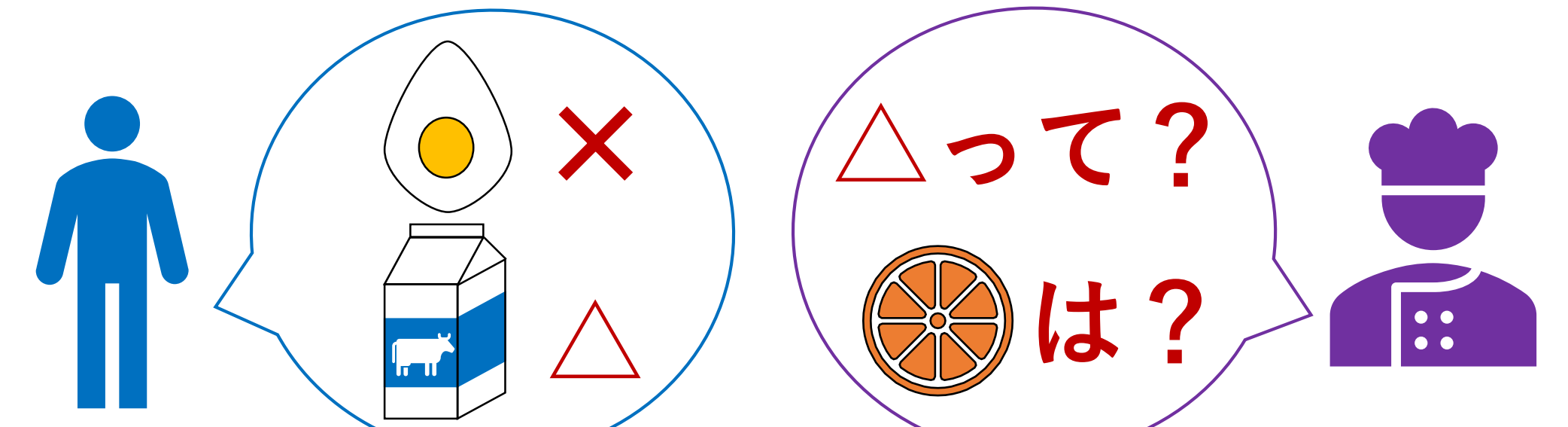
飲食店等において、顧客一人一人の詳細なアレルギーに寄り添った対応が難しい



アレルギーは千差万別



全体向けの表示だけでは情報が不十分な場合も



アレルギー情報の交換は時間や手間がかかる

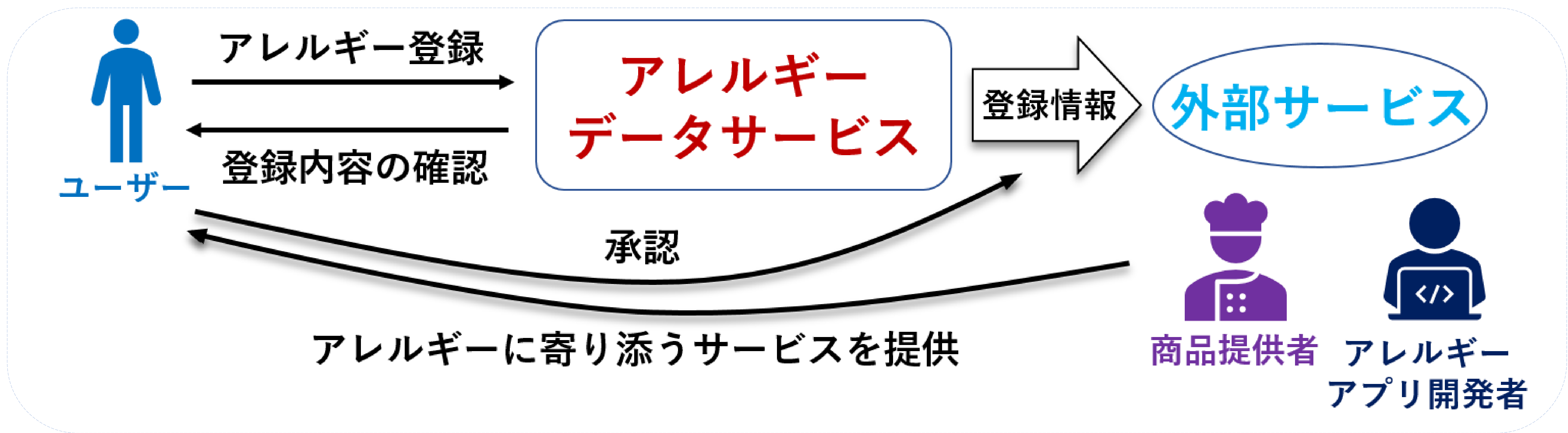
研究

目的 ユーザーが、自身のアレルギーに寄り添った対応を手軽に受けられるようにする

キーアイデア

ユーザーの登録した詳細なアレルギー情報を一元的に管理し、ユーザーの了承のもとでそれらの情報を外部と連携する

「アレルギーデータサービス」



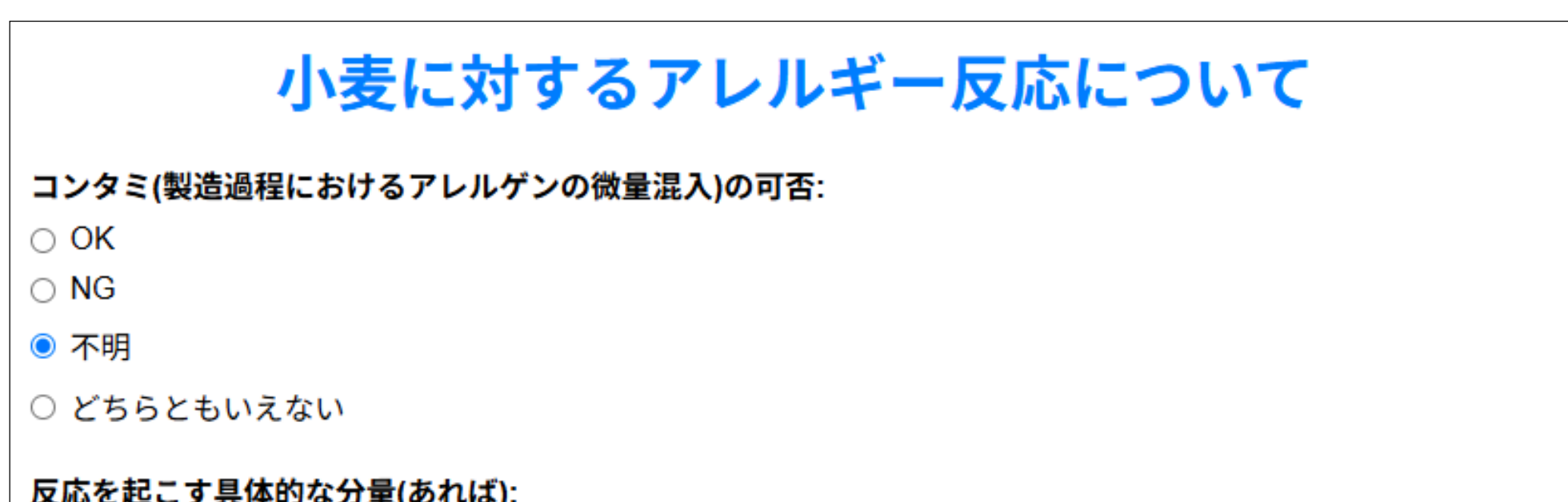
提案手法

アレルギー情報を登録し、QRコードを通して第三者に表示するWebアプリを作成

機能A

アレルギー情報の登録

アレルゲン (反応を起こす物質) とそれに対する反応を詳細に登録



機能B

登録情報の確認

登録したアレルギー情報は、メイン画面から確認可能



機能C

登録情報の表示

QRコードを通して、登録情報を従業員等の第三者に向けて表示



議論

本サービスの利点

- 定型に沿った情報を、分かりやすい形式で第三者に伝えられる
- 細かいアレルギー条件 (加熱すればOK等) も一緒に伝えられる

ユーザーが、より詳細かつ正確なアレルギー対応を受けられる

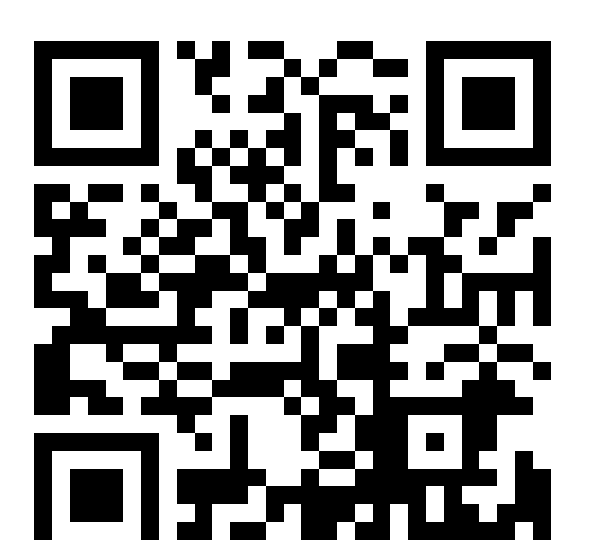
重要点

- 情報登録の項目が十分か
- 第三者への表示形式が適切か

今後の展望

- APIを通して他アレルギーアプリと連携 → アプリごとの情報登録の手間が省ける
- 食物以外のアレルギー (吸引、接触等)

アプリ体験



<https://es4.eeddept.kobe-u.ac.jp/allergydataservice/>